

競技要綱

1. 第14回九州北部地区大会の競技の種類は次のとおりとする。
 - (1) 手旗受信競技(個人)
 - (2) 手旗受信競技(団体)
 - (3) 手旗送受信競技(団体)
 - (4) ロープワーク競技(個人)
 - (5) ロープワーク競技(団体)
2. 団体競技への参加資格は、単位団単位を基本とする。

ただし、単独では各競技に参加できない単位団にあつては、複数の単位団をもってチームを編成し、競技に参加することができる。この場合、各競技点数は加算しない。

また、団体競技において単位団で最大2チームの参加を認め、この場合、各団点数の高い1チームのみを採用し得点を与える。
3. 競技委員長及び競技委員は、参加団の成人指導者若しくは指導者連絡協議会の会員の中から実行委員長が委嘱する。
4. 各競技の詳細を以下のとおりとする。
 - 1) 手旗受信競技(個人)

参加資格：全ての参加団員の希望者

競技方法：ア．送信は、無意味50字、有意味50字の2種類とする。

イ．送信文は、九州北部地区連盟において作成する。

ウ．送信場所は、1カ所とし一人の送信者の発する信号を同時に受信する。

エ．その他の競技方法は、日本海洋少年団連盟競技実施要綱第5条(3)に順ずる。

採点方法：ア．採点は競技委員が行う。

イ．無意味、有意味ともに50点満点とし、誤字、脱字は1字につき1点を減ずる。

ウ．採点上、疑義を生じた場合は、競技委員にて検討し、競技委員長が決定する。

エ．無意味、有意味の両方の満点者には満点賞と賞状を授与する。

オ．当競技は総合点数には加算しないのとする。
 - 2) 手旗受信競技(団体)

参加資格：各団から選出されたチームとする(各団2チームまで参加可)

競技方法：ア．各チーム5名をもって編成する。

イ．送信は、無意味50字とする。

ウ．送信文は、九州北部地区連盟において作成する。

- エ．送信場所は1ヵ所とし、一人の送信者の発する信号を同時に受信する
- オ．各チーム1列縦隊（前後左右1米以上）で整列し受信場所はクジ引きにより決定する。
- カ．送信速度は、個人競技よりやや早く、10文字区切りとする。
- キ．その他の競技方法は、日本海洋少年団連盟競技実施要綱第5条(3)に順ずる。

採点方法：ア．採点は競技委員が行う。

- イ．各自50点満点とし、誤字、脱字は1字につき1点を減ずる。
- ウ．採点上、疑義を生じた場合は、競技委員にて検討し、競技委員長が決定する。
- エ．成績は5名の合計点とし、各団の最高点数チームの点数を採用する。

3) 手旗送受信競技(団体)

参加資格：各団から選出されたチームとする（各団2チームまで参加可）

競技方法：ア．各チーム5名をもって編成する。

- イ．送信は、無意味50字とする。
- ウ．送信文は、九州北部地区連盟において作成する。
- エ．各チーム1列縦隊（前後約10米間隔）で整列し場所はクジ引きにより決定する。
- オ．発動後10分を経過して最終受信者が終了してない場合は失格とする。但し、競技は12分まで続行させる。
- カ．その他の競技方法は、日本海洋少年団連盟競技実施要綱第6条(3)に順ずる。

採点方法：ア．採点は競技委員が行う。

- イ．100点満点とし、誤字、脱字は1字につき2点を減ずる。
- ウ．採点上、疑義を生じた場合は、競技委員にて検討し、競技委員長が決定する。
- エ．成績は競技点と品位点の合計点とし、各団の最高点数チームの点数を採用する。
- オ．品位点の採点基準は、日本海洋少年団連盟競技実施要綱第6条(5)に順ずる。

4) ロープワーク競技(個人)

参加資格：全ての参加団員の希望者

競技方法：ア．個人競技は実技とし、個人のロープを使用する。

- イ．出題範囲は20課題（別表）の中から5課題を選定し出題する。出題する課題は当日出題カードにて発表する。
- ウ．競技参加者は指示されたとおり前後左右（1m）をくずさないように迅速に位置に着き、終了後も勝手に位置を離れることなく指示により行動すること。

エ．競技参加者は配布された出題カードに団名と名前を記入し、号笛を合図に5課題を個人のロープに結び、出題カードをロープに固定し、その場に置く。

オ．競技時間は5分とし、競技終了の号笛を鳴らし終了を知らせる。

カ．競技参加者は指示されたとおり競技場を退場する。

採点方法：ア．採点は競技委員が行う。

イ．5点満点とし、未実施、間違え1課題につき1点を減ずる。

ウ．採点上、疑義を生じた場合は、競技委員にて検討し、競技委員長が決定する。

エ．満点者は満点賞と賞状を授与する。

オ．当競技は総合点数には加算しない。

5) ロープワーク競技(団体)

参加資格：各団から選出されたチームとする(各団2チームまで参加可)

競技方法：第13回地区大会と同じ方法を採用する。

ア．各チーム5名をもって編成する。

イ．出題範囲は20課題(別表)の中から5課題を選定し出題する。出題する課題は当日審判員に通達する。

ウ．競技はロープのリレー方式とし、1チームで使用するロープは1本とする。

エ．競技時間は10分間とし、時間内に終了宣言がないチームは失格とする。但し、競技は12分まで続行させる。

オ．各チーム1列縦隊でスタートラインに整列し、場所はクジ引きにより決定する。

カ．競技のスタートラインと競技地点との距離は10mとする。

キ．各チームはスタートラインの手前で1列縦隊で整列し、腰をおろして待機する。

ク．第一競技者は、競技に使用するロープを持ち、スタートラインの手前に立ち、スタート合図を待つ。

ケ．第1競技者は、スタートの合図により競技地点に向かうが、スタート合図前にスタートラインを踏んだり、同ラインより前には出たはならない。なお移動中は競技の安全な進行上、ロープを振り回したり、引きずって走ってはならない。

コ．全ての競技者は移動の途中で課題の結索を行ってはならない。結索棒の保持する審判員の前に止まってから、出題された課題の結索を開始する。

サ．第1課題を終了した場合は、審判員が次の課題を出題するので、その後結索を解き第2課題に進む。この要領で第5課題まで行う。間違った結索をした場合は、審判員は記録用紙に記録する。

シ．全課題が終了したら、スタートラインに戻り、次の競技者にロープを手渡す。この時、次の競技者はスタートラインを踏んだり、

同ラインより前には出てはならない。

ス．最後の競技者は、スタートラインを通過と同時に右手を上げて「終了」の宣言をする。

セ．審判員は、競技終了時間を採点用紙に記入する。

採点方法：ア．審判員は競技委員が行う。

イ．25点満点とし、未実施、間違え1課題につき1点を減ずる。

ウ．採点上、疑義を生じた場合は、競技委員にて検討し、競技委員長が決定する。

5．総合順位の決定は、次の定めるところによる。

1) 競技総合成績は、団体競技を対象に行い、得点総合計の多い団の順とする。

2) 得点総合計が同点の場合は全ての競技に参加し、結索競技(団体)の順位の高い団を上位団とする。

3) 入賞は各団体競技とも6位までとしその得点は次のとおりとする。

1位：20点 2位：18点 3位：16点

4位：14点 5位：12点 6位：10点

4) 各競技の得点の方法及び決定は次のとおりとし、同点、同タイム、同順位は同順位とし、次位を欠とする。

イ．手旗受信競技(団体)は合計点数の多い団の順とする。

ロ．手旗送受信競技(団体)は点数の多い団の順とする。

ハ．ロープワーク競技は、点数が高く、タイムの早い団の順とする。

5) 総合優勝団には、賞状及び総合優勝旗(持ち回り)・優勝杯(持ち回り)を授与し、準優勝、3位の団には賞状及びトロフィーを授与する。

別表（ロープワーク出題課題）

- （ 1 ） ハーフ・ヒッチ（一結び）
- （ 2 ） ツー・ハーフ・ヒッチ（二結び）
- （ 3 ） スリップド・ヒッチ（引き解き結び）
- （ 4 ） ドウロー・ヒッチ（引き解き結び）
- （ 5 ） ティンバー・ヒッチ（ねじり結び）
- （ 6 ） クラブ・ヒッチ（巻き結び）
- （ 7 ） リーフ・ノット（本結び）
- （ 8 ） ハーフ・パウ・ノット（片なわ結び）
- （ 9 ） オーバーハンド・ノット（一重結び、とめ結び）
- （ 10 ） エイト・ノット（8の字結び）
- （ 11 ） ループ・ノット（二重止め結び）
- （ 12 ） ウォーター・ノット（てぐす結び）
- （ 13 ） ボーライン・ノット（もやい結び）
- （ 14 ） ボーライン・オンザバイト（腰掛結び）
- （ 15 ） シングル・シート・ベンド（一重つなぎ）
- （ 16 ） ダブル・シート・ベンド（二重つなぎ）
- （ 17 ） フィッシャマンズ・ベンド（錨結び）
- （ 18 ） クリート止め
- （ 19 ） 係柱（ビット）止め
- （ 20 ） スカウトコイル（えび結び）

出題課題については第48回全国大会と同じとする。

第14回九州北部地区大会の競技の特徴

競技種目は第13回地区大会に準じた。

団体競技は、最大2チームの参加を認め、競技成績は点数の高いチームを採用する。

ロープワーク個人を実技とし、満点賞を授与する。

ロープワーク団体の競技方法を第13回地区大会に準じた。

ただし、「よし」「もとい」は止め、間違っても次の課題に進み、出来た分のみの点数を認める。

ロープワーク課題を第48回全国大会に準じた。

5課題は事前に発表しない。当日発表（過去の地区大会は事前発表した）

20課題全て覚えて来るのが理想だが、

団体は10分で終了するようなもの。個人は1本のロープで出来るもの。

手旗送受信団体は、時間内に終わった団を競技順位の対象とする。

満点でなくても、競技順の対象とする。

千葉大会で採用された、送受信競技・ロープワーク競技の方法は採用していない。